

なますて



平成22年8月1日発行

住職あいさつ

例年になく猛暑が続いている毎日ですが、皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。稲作の予想も「やや良」とのこと、久々の豊作が期待できそうです。

もうすぐお盆です。一昔前はどこの家庭でも盆棚を準備し、少しでも早く家に帰ってこれるようにとの思いでキュウリの馬を、又、ゆっくりお浄土へお戻りになるようにナスの牛をそれぞれ作って供えました。そして、山海の珍味(海の幸は魚介ではなく昆布です。以前はお墓にぶらさげていたものです。)をお供えてご先祖様をお迎えます。

このようなお盆の行事は、日本独特の御霊まつりであり子供たちに仏教的な情操教育、すなわち、命の大切さやご先祖様、両親を大切にすることなど自然に養う機会でもあったのだと思います。

どうぞ、ご先祖様を中心に家族、親戚が楽しくお過ごしいただきたいと思います。

合掌

秋季開山忌のご案内

光林寺の秋季開山忌を下記日程にて執り行います。
ご家族、ご親戚お誘い合わせの上、お参り下さい。

日時 平成22年11月23日(火・祝日)

午前10時30分 御詠歌

午前11時00分 開山忌法要

法要終了後、ご法話



※ 秋季開山忌の当番地区(塔前)は
石鳥谷・日詰・山王海 各地区 です。

花まつり

桜も満開の4月28日、花まつりを開催しました。

花まつりは仏教の開祖お釈迦様の誕生を祝うお祭りで「降誕会(ごうたんえ)」とも呼ばれます。

当山の花まつりでは、ルンビニー苑や好地荘、松風園の利用者、八幡保育園の園児たち、計100名ほどを招いて開催しました。

皆で献花・献灯し、お釈迦様のお像に甘茶を捧げ、花びらをまきお釈迦様のお誕生日を盛大にお祝いしました。

その他にも、八幡保育園園児の皆さんによる出し物の披露や参加者全員での合唱など楽しい一時を過ごしてくれたと思います。最後に住職からお菓子が配られ、みんな大喜びでした。

今年は、開催予定だった誕生参り(5歳位までのお子様対象)は参加人数不足のため、開催できませんでした。来年は是非、大勢の方の参加をお待ち申し上げます。



第45回光林寺寄席

7月4日に五街道雲助師匠をお招きし第45回光林寺寄席が開催されました。当日は天候にも恵まれ百名を超えるお客様にご来山いただきました。誠にありがとうございました。

師匠には、『家見舞』、『幾代餅』、『夜鷹そば屋』の三席を演じていただきました。どのお話も素晴らしく、また、師匠の熱演に聴衆は引き込まれ、堂内は笑いに包まれました。

なかでも、最後に演じられた『夜鷹そば屋』は、笑いの中にも人情を感じさせ、涙を誘う素敵なお話でした。感動のあまり、

当山副住職が不覚にも涙を流したとか流さないとか…。改めて落語とは奥が深いものだど気付かされました。

また、恒例となりました『お茶席』も開かれ、ご好評いただきました。

来年も6～7月に開催を予定しております。是非、皆様も一度、足をお運びいただき、『生』の落語にふれていただきたいと思います。



五街道雲助師匠



豊沢光林寺公園清掃奉仕

去る、6月19日(土)、毎年恒例の『豊沢・光林寺公園清掃奉仕』が北寺林地区と好地地区の檀家さん20名の協力を得て行われました。

毎年6月にその年の春・秋の開山忌当番の地区が担当して行われます。

朝10時頃から、草刈りと掃除を行い、45分程で見違えるようにきれいになり、続いて、『阿弥陀くら』に移動し同じように草刈り、清掃をしていただきました。

その後、大沢温泉にて昼食とり、入浴、休憩をし解散となりました。

豊沢・光林寺公園は当山の御本尊『阿弥陀如来像』が顕現された由緒ある土地です。いわば、ルーツの一つともいえる場所です。こういった場所をお檀家の皆様とともに訪れ、清掃するということは大変意味のある、大事な事だと思っております。

今後も、ご協力下さいますようお願い申し上げます。



てらこや合宿

昔の寺子屋は楽しい教育の場であり、境内は子供たちの遊びの場でもありました。

『子供たちの元気な姿を再び!』ということで、小学生を対象にして約三十年続けています。

29回目をおかえた今年は、小学生32名、中学生1名、高校生5名の計38名が参加してくれました。

今年は大橋不立先生をお招きし『水墨画』に挑戦しました。我々大人からすると『水墨画』と聞いただけで身構えてしまい、なかなか筆が進まないものですが、そこは豊かな発想力と行動力を持つ子供たち。最初は少しおっかなびっくりでしたが、慣れてくると先生も驚くような作品が次々と生まれていきます。最後にみんなの作品を並べてみるともの凄い迫力でした。

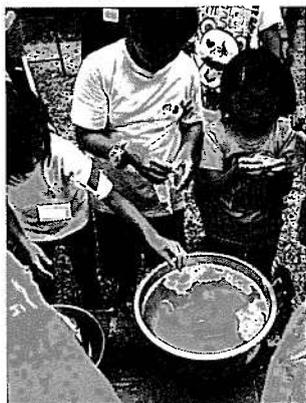
夕食には、『ひつつみ』を作りました。小麦粉をこねたり、野菜を切ったり、みんな一生懸命にがんばりました。そのかいもあって

とてもとてもおいしいひつつみができました。

夜は、基地で肝試しをし、本堂で就寝。朝は5時過ぎから鐘突き、正座、朝のお勤め、掃除、ウォークラリーと盛りだくさんの内容でした。しかし、子供たちは疲れ一つ見せず、朝ご飯の玄米粥をペロリとたいらげ、最後まで元気に過ごしてくれました。

大人たちは少々エネルギー切れでした・・・()_()

来年、当合宿は第30回を迎えます。お楽しみに!!!



Q and A

Q. お盆とはどんな行事ですか？

A. 現代の日本において、お寺やお墓にお参りする機会といえばお盆が最も一般的なものといえるかもしれません。

『お盆』は正しくは『盂蘭盆(ウラボン)』といいます。古代インドの言葉で『ウランバナ』という言葉の音訳で、「逆さづりの苦しみ」という意味です。

お盆の行事はお釈迦さまの弟子の一人、目連尊者(もくれんそんじゃ)が母を救う話に由来しています。

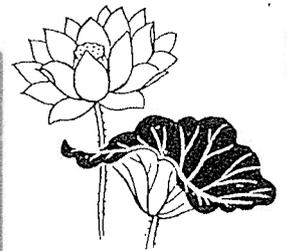
目連尊者はある時、神通力によって亡き母が餓鬼道に落ち逆さ吊りにされて苦しんでいると知りました。そこで、どうしたら母親を救えるのかをお釈迦様に相談したところ、お釈迦様はこう言われました。

「夏の修行が終った7月15日に僧侶を招き、多くの供物をささげて供養すれば母を救うことが出来るであろう」と。

目連尊者がお釈迦様の教えのままにしたところ、その功德によって母親は極楽往生がとげられたとのことです。

それ以来(旧暦)7月15日は、父母や先祖に報恩感謝をささげ、供養をつむ重要な日となりました。わが国では、推古天皇の14年(606)に、はじめてお盆の行事が行われたと伝えられています。日本各地で行われるお盆の行事は、各地の風習などが加わったり、宗派による違いなどによってさまざまですが、一般的に先祖の霊が帰ってくると考えられています。

多くのお寺では施餓鬼供養をしますが、家庭では先祖の霊が帰ってくる日としてさまざまな行事を行います。



※餓鬼道・・・人間がこの世(現世)で行った行為の報いとして、次の世(来世)に受ける六つの世界(六道=地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天)の一つ。この世での「むさぼり」の報いとして落とされ、飢えや渇きの苦しみに満ちた世界だと言われる。



ルンビニーからのお知らせ

星が丘の「るんびにい美術館」では、企画展『イーハトーヴォのオールブリュット』(9月14日迄)を開催しています。これは現在パリにて開催されている『ジャポネ展』に出展中の岩手の作家9名の作品を展示しております。

館内では喫茶や軽食の他、菓子工房『夢舎夢舎』(おしゃむしゃ)で制作しているスイーツ類も楽しめます。どうぞ、ご来館下さい。

開館時間 10:00～17:00 (水曜定休)

※10月17日(日)に『ルンビニー祭』を開催致します。ご来苑、お待ちしております。

編集後記

今年の夏は例年になく暑いですね。こうなると怖いのは熱中症です。

水分を十分に取っていても塩分の摂取を怠ると体調を崩しやすいそうですし、部屋の湿度が高いと発汗による体温調節がしにくくなるそうです。水分を取っているから、室内にいるから、と言っても油断はできません。

水分補給にはスポーツドリンク、湿度管理はエアコン(除湿)が効果的です。年配の方にはそれらが苦手という方も多いかとは思いますが、うまく活用して無事、夏を乗り越えましょう \("o")/